

授業科目とその内容

種類	授業科目名	単位数	講義等の内容
特別研究	修士論文作成 特別研究	4	修士論文の作成を目的とし、その計画および実施について演習、実験、調査および個人指導を行う。学生は各教員の指導の下で選択したテーマについて研究する。
講義	○教育原理特講	2	教育を学習する基礎として、教育の概念の時代にともなう変容、教育目的・内容、教材論（教科書を含む）、教育の概念「教え」と「学び」、教育目的・内容論の変容、教材・教科書論、日本における教科書問題の諸相について考察し、それを発展させ、学校とその制度論さらに教員養成・教員研修、生涯学習等の現状と今後の課題について学校・学校制度論、学校の機能と役割、教員養成・教員研修、今日の教員問題、生涯教育の展開について考察する。以上のテーマについて問題点の整理と今日的課題を考究する。
	○日本教育史特講	2	海外の様々な文化・文明との交流を重ねて日本列島に展開した人間形成・教育の営みは、どのような変遷を経て今日に至っているのか。近代学校教育制度が導入されて130年余、明治初年の第一の学制改革、戦後新教育発足の第二の学制改革、そして戦後60年、今第三の学制改革の大波が教育の基盤からの改変をせまっている。近世から近・現代への大きな歴史のうねりをどのように把握するか。日本の教育の歴史的特質について考察する。
	○臨床心理学特講 ～初等教育～	2	臨床心理学は、心の機能と社会環境との相互作用から生じている問題を理解し、解決の仕方を考える学問である。ここでは、初等教育における問題を対処するための諸技法について講義と実習を行う。とくに、カウンセリングの理論・技法の方法と、カウンセリングの主要なアセスメント、心理検査、面接法、内面理解などについて検討および、自殺、不登校、摂食障害など病理の理解を図り、心のあり様の理解および諸問題への対応について考究する。
	○教育心理学特講	2	教師として必要な教育心理学について、大学での実習を基礎にして、さらに、教育心理学の意義と課題、適応の心理と指導、発達と教育、教育評価、学習の心理、心身障害児の教育、学習指導についての理解を高め、実習等で実践力をつける。
	○教育経営特講	2	現在、教育改革の流れの中で、「学校の自主性・自律性の確立」が問われている。そのために、学校現場では、これまで以上に教職員、特にスクールリーダーには経営感覚を発揮することが求められている。本講では、教育経営学の基本的な構造と諸側面について概説し、今後の教育経営の在り方について、いくつかのケーススタディを基に検討する。 教育実践での教職員のスクールマネジメント、教授組織等の経営感覚を持ったケーススタディについて考察する。教育経営学の基本的な構造、学社連携・融合について、いくつかのケーススタディについて、教育経営の在り方を考察する。

種類	授業科目名	単位数	講 義 等 の 内 容
講	○学校経営特講授 ～初等教育～	2	教育改革推進下の初等教育における学校・教師に問われている諸課題を分析的に捉え、新教育課程の重要検討課題になっている教師の指導力・力量形成の課題、学力向上にむけた授業研究と協力教授組織の開発、地域に開かれた学校づくりと地域に根ざす教育課程の研究開発、学校・家庭・地域の連携・融合による教育づくりの諸問題を戦後のわが国の教育観・学力観・学習観及び多文化社会における学校の在り方などを含めて研究する。
	○教育実践特講 ～初等教育～	2	学校教育は、人間形成の基盤を培うものであり、教師が担う役割は極めて重要であるという認識のもとに、初等教育段階における学習者の発達の過程を見通し学習指導計画を綿密に行い進める必要がある。初等教育の現状と課題や教師の活動の実際と問題点を追究し、児童が変化の時代を生き抜くために必要な様々な資質や能力を発達段階に応じて獲得し、向上していくように導く人間教育を効果的に進めるための理論の実践化と実践の理論化について修得する。
	○教科教育法特講 ～社会～	2	小学校社会の学習指導要領に位置づけ、社会科教育方法の基礎として、文化的な発展を歴史的視点と生活文化精神文化の両面から考察し、その中から文化の伝承、新しい社会の創造としての教育的価値のある教材をいかに抽出・構成していくかを、これまでの実践事例をもとに研究する。とくに人間形成の基礎としての文化活動の場を通して学びの方法、その指導について考察する。
	○教材開発特講	2	<p>教師による教材開発の基礎として、地域資料および、博物館等の施設の資料の活用能力の育成が小学校教育では、重要である。このため、地域の自然・文化・生活の資料のデジタル・アーカイブ化による教材開発方法を学習する。</p> <p>地域の自然・歴史的・文化的資料の映像・音声記録とその教材としてのデジタル・アーカイブの構成を整理し、それをを用いて文化の伝承と現在の活動の関係を考察させる教材の開発の方法を検討する。さらに、国内外の博物館、図書館、大学、文化施設等がもつデジタル・アーカイブズを調べ、今日的な文化の動向を考察・学習するための教材開発の方法を研究する。</p> <p>地域資料の学校教育用のデジタル・アーカイブをもちいて、自然、地域文化の伝承・発展について、世界文化遺産白川郷などの具体的事例を使い、その教材化および、その活用方法・評価について教材論と併せ考察する。</p>
義			

種類	授業科目名	単位数	講 義 等 の 内 容
講	○教材開発研究	2	<p>総合的な学習や社会科・家庭などの学習基礎教材として地域の自然・文化・生活と他の地域との関連を調べる教材開発方法を学習する。</p> <p>地域の自然・文化・生活を基礎として、地域文化の発展が他地域の文化の伝承が、どのような関係にあるか、文化情報データベースを構成し、文化の変遷について考察し、離れた地域間の文化の伝承と発展について学習するための教材開発の方法を考察する。</p> <p>教材開発事例として、白山地域と東北（例：“延年の舞”を中心にその関係）、いわき市の念仏踊りと沖縄のエイサー、中国からの文化の伝承を、デジタル・アーカイブズを利用し、文化の伝承についての学校教育を目的とした教材データベースの開発事例および教材化方法について考察する。</p>
	○教育情報特講	2	<p>教育における多様なメディアをの利用として、教育情報では、教育に関する各種資料を総合的に収集・管理・流通・利用し、新しい文化活動の源を創造する基盤となっている。そこで教育に関する情報のデジタル化とその管理に必要なメタデータの作成、知的財産権、プライバシー、個人情報の取り扱いについて考察し、教育情報データベースの作成が可能になるように学習する。特に、文化活動の教材化については、デジタルアーカイブの教育利用として位置づけ理解する。</p>
	○教育情報研究	2	<p>教育情報データベースを用いて、教育目的に応じた教材の開発、実践と記録の評価、主体的な学習活動への文化活動情報の教育計画、提供などを学習する。これらを基に、教育における新しい文化活動への情報利用の方法を考察する。</p>
	○教育メディア特講	2	<p>教育におけるメディアの発達、効果研究を概観し、メディアのもたらす学習環境と学習コミュニティの形成、教育コミュニケーションにおける教育情報表現について学び、教育用コンテンツの制作、流通、教材の設計と評価、メディアと著作権の問題に言及する。一方、新しい情報表現としての仮想空間の教育的効果、e-Learning など新しい遠隔教育システムについても学習する。</p>
	○教育方法特講 ～初等教育～	2	<p>教育方法の実践力は、教師の成長をもとに発達する。この視点から、初等教育における授業のデザイン・教材研究・展開・分析・教師の子どもとの認知などを、自分の授業から学び取ることについて研究・考察する。</p>
	○遠隔教育特講	2	<p>遠隔教育を総括し、伝統的な対面授業との対比において、新しいメディアを用いる遠隔教育のさまざまな形態・機能・教育方法について、教育における多様な目的に応じた適切なメディア活用方法や、その基盤となる学習理論や教授技術のメディア活用場面での効果等をふまえて研究指導する。</p>
義			

種類	授業科目名	単位数	講義等の内容
講	文化学特講	2	文化には、精神文化から生活文化まで、エリート文化から大衆文化まで多様な局面がある。それを類型化してしまうのではなく「生きた」相において動的に把握する。アメリカ及び日本の文化に焦点をあて、比較文化的な視点・視野を重んじ、英語文献などを読みながら具体的な検討をしていくことによって、創造的な文化研究に導く。
	日本文化特講	2	近代文学の代表的作品である夏目漱石の『こころ』をテキストとして、作品に込められている漱石の内面を考察していきたい。「自由と独立」に満ちた己をとおして生きた「先生」の中にある「淋しき」は、漱石自身とどのようにかかわっているかを考えていく。
	言語文化特講 ～日本語構造～	2	語のあつまり・まとまりが語彙と呼ばれる。語および語彙は言語にとって重要な要素である。この語および語彙の様々な特性等を言語学的に説明する。日本語の語彙の構造や意味はどのように考えるべきなのか。語彙の体系、語形、語構成、意味、擬声語・擬態語、意味変化、シソーラスなどの諸問題を考えていく。また受講者も問題を解くことで理解を深めたい。
	日本語学特講	2	日本語の歴史は、基本的には日本語を記した過去の文献を通して知ることができる。そのため、日本語の歴史を研究することと、過去の文献を読み解くこととは、密接な関係にある。この授業では範囲を日本語音韻の歴史に限定し、過去の文献とそこから推定される音韻の歴史について考えたい。さらに、音韻の歴史に関する研究論文を読むことで一層の理解を深めたい。
	映像文化特講	2	私たちは（子どもたちも含めて）、日頃、テレビや映画はもちろん、近年ではインターネットを通して、多量で多様な映像に取り巻かれている。映像が持つ文化的意義や価値、私たちや子どもたちに及ぼす影響を考えるためには、こうした映像を漫然と受け流すのではなく、批判的・分析的に見ることが必要である。また、テキスト情報や音声情報と比較することにより、映像文化の特質がより鮮明に見えてくる。本講では私たちを取り巻く映像文化の特質について具体的に考察する。
	文化メディア特講	2	文化資料、文化活動等の特性の研究を併せ、その文化情報をどのようなメディアで構成するか、また文化メディアの発展の歴史および社会に対応した変容について検討する。これらをもとに、現代における文化メディアがもつ特性を配慮し、映像・音声・文字情報等の記録・管理・流通・利用における文化活動の関係について実践活動に対応できるスキルについて習得する。
	伝統文化特講	2	我が国のあるいは地域に伝わる伝統文化の現状を把握し、記録・保存・管理・提示・利用するために、具体的な文化活動をテーマとしたデジタル・アーカイブを開発するという手法が考えられる。こうした伝統文化のデジタル・アーカイブを開発するためには、当該文化活動に関する知識と理解、デジタル化の技術、著作権等知的財産権への配慮が必要となってくる。本講では、沖縄文化・白山文化等、具体的な伝統文化をテーマにデジタル・アーカイブ開発の課題について実践的な視点から考察する。
義			

種類	授業科目名	単位数	講 義 等 の 内 容
講 義	教育文化特講	2	<p>文化メディアの発達とそれが及ぼした教育への影響について考察する。とくに、小学校教育では、メディアの発展が教育方法、教育技術に影響をおよぼし、またさらに最近の状況として、文化資料等の情報化による学校を中心にした教育文化の変遷について考察する。</p> <p>わが国の文字・印刷術の発展と教育・生活文化の変遷にみられる日本文化と日本人の教育文化形成にみられる諸問題の考察</p> <p>電信・電話・ラジオ・映画・テレビ等のメディアの登場・発展と教育及び生活文化環境の変化があたえた日本人の教育文化意識形成の諸問題</p> <p>コンピュータ等のマルチメディア利用の進歩と高度情報社会の到来による多文化社会の中のわが国の教育文化形成に課せられた課題を究明する。</p> <p>戦後の文化として、テレビ・パソコン等の新しいメディアが家庭、社会、学校等におよぼす文化の変遷について考察する。</p>

注) ○印は、教職科目を示す。